

1 趣 旨

教員が学習指導要領の改訂で示された児童生徒の「体験活動」の必要性について一層の理解を深めるとともに、活動プログラムの実習を通して「体験活動」の充実に資する。

2 ねらい

- (1) 新しい学習指導要領で示されている体験活動の必要性について知識を深める。
- (2) 実習を行うことにより、体験活動の指導力を高める。
- (3) 体験活動を行う上でのリスクマネジメント、危機管理能力、安全に対する能力を高める。

3 日 程

- (1) 期 日 平成 27 年 8 月 15 日（土）・16 日（日）・17 日（月） 2泊3日
- (2) 参加者 13名
- (3) 対 象 小学校・更新講習対象者（中・高等学校教諭も受講可）
- (4) 研修内容及び講師

8月15日 （土）	午前	○受付 ○開講式：所長挨拶 ○講義「学習指導要領と体験活動」 講師：金沢星稷大学 教授 井上好人 ○演習「体験学習法の体験①」 講師：交流の家 次長 ・体験学習法とは・体験学習法エクササイズ他
	午後	○演習「体験学習法の体験②」 講師：交流の家 次長 ・体験学習法（新聞紙タワー、謎の宝島） ○講義「体験活動と安全管理」 講師：金沢星稷大学 教授 清水和久
8月16日 （日）	午前	○受付 ○実習「体験活動の実際①」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・火起こし体験・野外炊飯（カレーライス作り）
	午後	○実習「体験活動の実際②」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・いかだ体験
8月17日 （月）	午前	○受付 ○実習「体験活動の実際③」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・ポイントオリエンテーリング
	午後	○講義「体験活動の教育的意義」 講師：金沢星稷大学 教授 池田幸應 ○履修認定試験 ○閉講式

4 成果と課題

《成 果》

- 学級経営等に生かす手ごたえを感じることができた参加者が多くいた。

【感想より】

- ・ 教室内でグループ活動を行うと、子供がすぐにけんかをしてしまう。自分のやらせ方に問題があったことが分かり、今後に生かせるヒントを得ることができた。
 - ・ 体験活動を実際に行うことで、子供たちがどんなことを感じ、どんなことを考えるか経験できた。また、どんなところでつまづくかを知ることができた。
 - ・ 実際の体験をとおして、リスクマネジメントについて考えることができた。
 - ・ 体験の大切さや必要性を学んだ反面、自分が担任している子供へ体験活動を積極的に提供する責任を痛感した。
- 大学教授と交流の家職員それぞれの専門性を生かしながら、講義・演習・実習をとおして、自然体験活動の指導者としての必要な知識や技能を習得することができた。
 - 異年齢、異校種の参加者が、講習をとおして交流し、今後の教育活動に生かすべく、連絡先を交換するなどしていた。参加者にとって新たなつながりを構築する場となった。

【感想より】

- ・ 初めて顔を合わせた同士が、たったの3日で深い絆で結ばれたことが印象に残った。
- ・ 体験することで心に残ること、学べることも多く、仲間意識も強く感じられました。
- ・ グループの中で自然と役割分担ができていた。人見知りな自分が、それなりにコミュニケーションをとることができ、少し自信になった。

《課 題》

- 参加者数が少ない。金沢星稜大学と相談し、以下2点について改善する。
 - ① 広報の時期を早くする。年度内の広報とする。
 - ② 実施時期を考慮し8月後半にする。



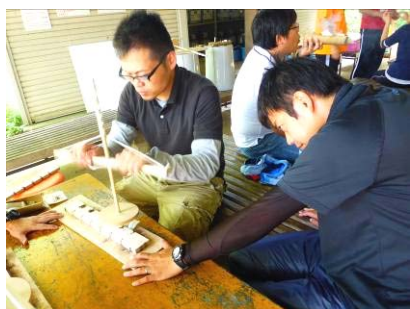
講義 「学習指導要領と体験活動」



演習 「体験学習法の体験」



講義 「体験活動と安全管理」



演習 「体験活動の実際」 火おこし



演習 「体験活動の実際」 いかだ体験



講義 「体験活動の教育的意義」